

息子の看取りから健康問題まで～ろう者の視点にたった医療～：石野 富志三郎先生

(2013/11/20)

医療福祉経営専攻 M2・青山 VOD 小野 洋子 (大学教員)

「この子らに世の光を」ではなく「この子らを世の光に!!」

今回は VOD 視聴でした。在宅介護中の父が肺炎を繰り返しているので、水曜日にも仕事を切り上げて家路に着き、帰宅するなり父の無事を確認したところ運よく？寝入っていたので、丁度始まるところの同時中継を見始めました。すると画面の前から離れられなくなりました。

時折映る石野先生のお姿や手話を見て、あ～会場に行きたかったなぁと思いました。

でも一人で VOD 視聴する利点もありました。「具合の悪い子供を毛布に包んで雪の中を自転車でお医者さんへ行き、診てもらえずに亡くなった。これは実話なのです。」

今の時代にこんなことがあっていいものか！と思わず号泣。周囲を気にすることなく涙しながら素晴らしいお話と名通訳に聞き入ることができたので、それも良かったと思います。「ゆずり葉」は見にやあかんですね。これも昨年の授業で紹介され、ネットで紹介 V まで見ましたが、そのままになっていました。あいにくご紹介いただいたイベントには行けそうにないので、できることならゆきさんの授業におまけ会を追加していただき、そこで受講者みなで鑑賞したいです。

また、「収入を度外視して理事へ」のお話にもぐっときました。私も介護と両立できる仕事への転職を考えることがあります。しかも先生は介護と仕事だけでなく、社会に立ち向かい変革を遂げている。やるせない出来事に耐えて個人の問題で済ませてしまうのではなく、理不尽なことは正してゆかなければいけない、その思いと行動力にはただただ脱帽するばかりです。そして、とても勇気付けられました。若き日の手話サークルの美女登場&逃亡のくだりは思わず噴き出してしまいました。受講して清々しい気持ちで一杯です。

冒頭石野先生は「悲しい話」をされると言われました。でも、苦労をものともしないような語り口で、温かみが伝わってきました。90分では語り尽くせない苦しみや想像を絶するような大変なことが数えきれないほどあったに違いありませんが、悲嘆にくれるそぶりはなく、優しさと秘められた底力と強い強い意志にあふれていました。

社会の仕組みや風習（つまりろう者のことを理解していない人間）がどれだけろう者を苦しめているのか、聞いて初めて気づかされることばかりです。「聾学校の先生が手話できない」とは驚きです。そういえば昨年のこの授業で NHK の手話通訳者から同じことを教わったのに、いつしか忘れておりました。感じるだけで終わっていたらダメですよ。

石野先生、通訳の山口千春様、貴重なお話をありがとうございました。

機会がありましたら、震災支援のお話も伺いたいです。大津と東京の行き来はとても大変だと思いますが、誰もが住みやすい世の中作りにますますご尽力ください。急に寒くなりましたので、どうぞお身体に気を付けて。私も、両親の介護やその他諸々（修論を含む）でくじけそうになったら、この講義を思い出して頑張りたいと思います。